

2023年3月期（2022年度） 第2四半期 決算説明会

2022年11月14日
日本精化株式会社





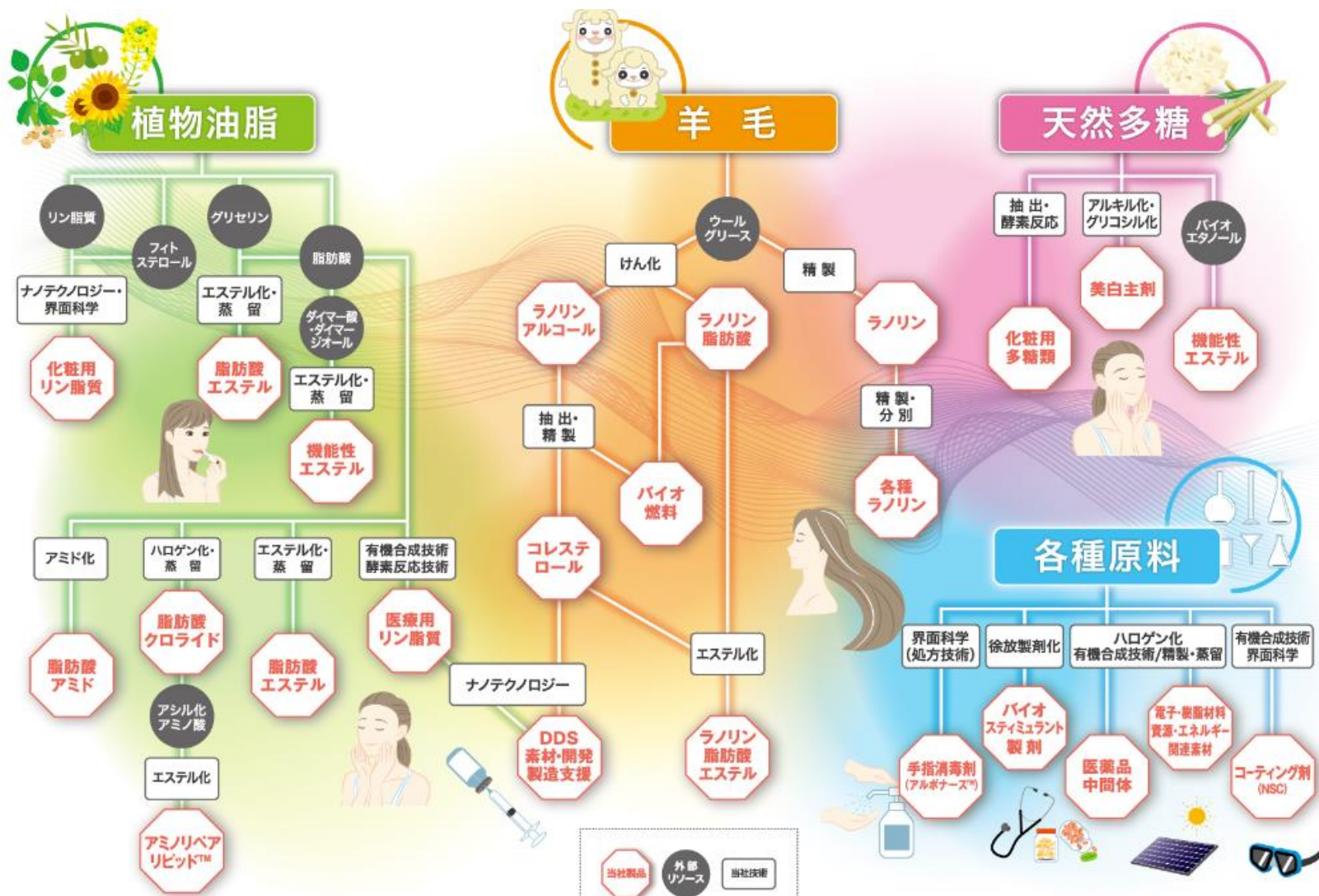
1. 日本精化 長期ビジョン



サステナブルなモノづくりで、地球の「キレイ」をお手伝い
コンプライアンスと安全・安心で、社会の「キレイ」をお手伝い
多様性を活かしたイノベーションで、未来の「キレイ」をお手伝い



2. 日本精化グループの事業領域



「アミノリベアリピッド」は日本精化株式会社登録商標です。

「アルボナース」は株式会社アルボースの登録商標です。

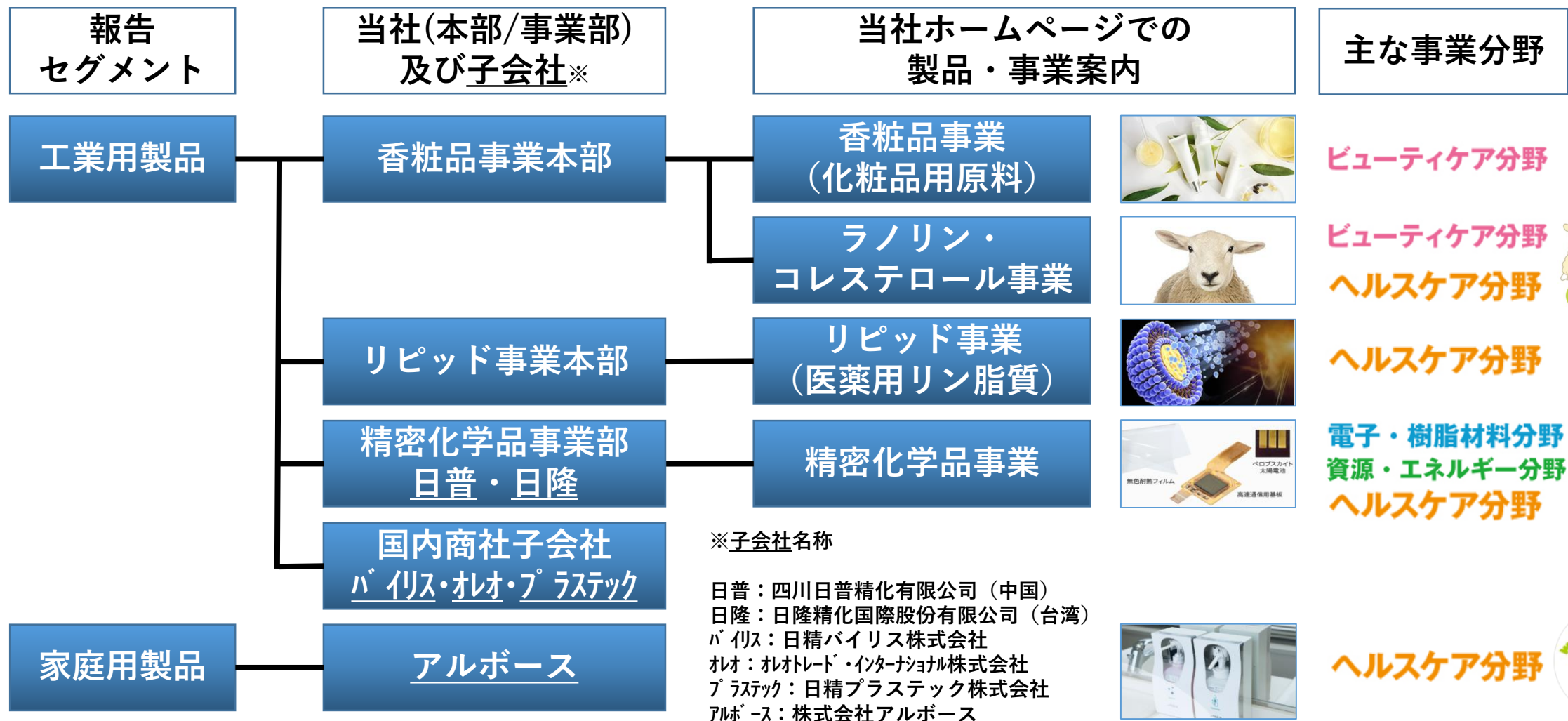


2. 日本精化グループの事業領域



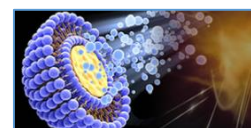


2. 日本精化グループの事業領域



※子会社名称

日普：四川日普精化有限公司（中国）
 日隆：日隆精化国際股份有限公司（台湾）
 バイリス：日精バイリス株式会社
 オレオ：オレオトレード・インターナショナル株式会社
 プラスチック：日精プラスチック株式会社
 アルボース：株式会社アルボース





2. 日本精化グループの事業領域

・化粧品市場（化粧品用原料の対象市場）の外部環境分析

項目	詳細項目	市場規模 (推定)	現状の環境分析	当社の対応
市場	日本	約2.6兆円	コロナ禍により、インバウンド需要消失・国内需要減少 ⇒ コロナ影響からの回復に遅れ	化粧品メーカーに幅広く採用 ⇒ 拡大
	海外	約38兆円	コロナ禍からいち早く立ち直り、成長している国が多い ⇒ 今後も着実な成長が継続	海外大手化粧品メーカー等への採用拡大
製品	消費嗜好	—	主に東アジア・東南アジアでの経済成長における化粧品市場の拡大、 高付加価値化	高機能原料の組合せ & マーケティング
	サステナビリティ	—	欧米を中心に、植物由来原料・非遺伝子組み換え原料使用等、 原料からの選別	ニーズに応える製品開発

⇒市場ニーズに対応し、海外需要（アウトバウンド需要を含む）を取り込むことが、今後の成長の鍵



2. 日本精化グループの事業領域

• 化粧品用原料の主な戦略

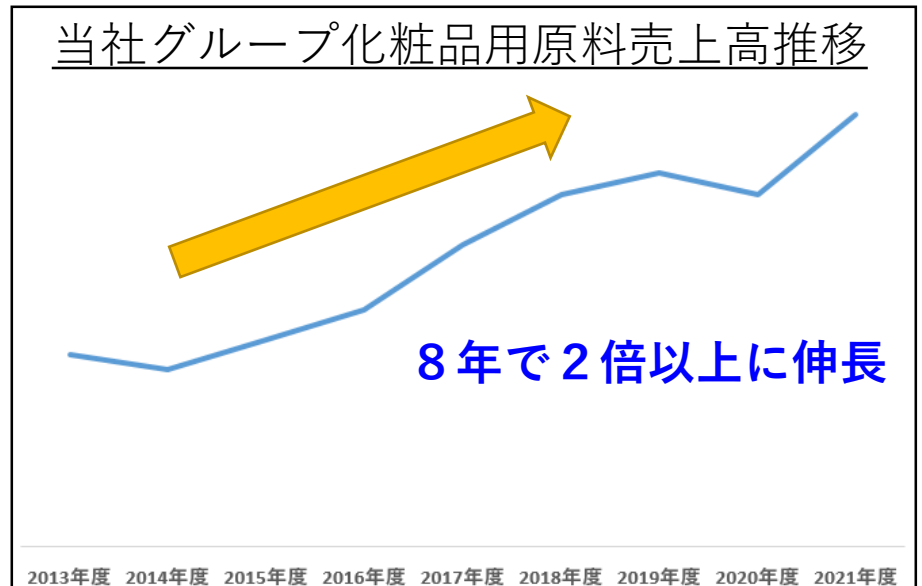
✓ 高機能原料を多数保有、その組合せにより顧客・消費者のニーズに的確に応えるマーケティング活動実施

⇒ 日本で多くの化粧品メーカーに採用、業績拡大

⇒ 日本市場で培った手法を生かし、
海外各国の特性に合致したニーズ
を発掘し拡販

✓ RSPO認証製品・Non-GMO※製品を
開発・上市

⇒ サステナビリティの動きが速い化
粧品業界のニーズにいち早く対応



※RSPO・・・持続可能なパーム油の為の円卓会議（認証制度）
Non-GMO・・・遺伝子組み換え作物でない



3. 2022年度第2四半期連結決算概要

- 売上高、各利益共に過去最高を更新、直近予想達成
- EBITDAも前年同期比増加

(単位:百万円)	2021年度 上期	2022年度 上期	前年同期比 増減率	直近予想 (2022年4月28日公表)	
	実績金額	実績金額		金額	予想比 増減率
売上高	16,218	18,677	15.2%	17,900	4.3%
営業利益	2,387	2,727	14.2%	2,450	11.3%
営業利益率(%)	14.7%	14.6%		13.7%	
経常利益	2,517	2,905	15.4%	2,600	11.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,698	1,956	15.2%	1,750	11.8%
1株当たり当期純利益 (円)	71.54	82.84		74.10	
EBITDA (償却前営業利益)	2,896	3,173	9.5%		

※2022年度より
減価償却方法を
定額法に統一



3. 2022年度第2四半期連結決算概要

- 工業用製品は増収増益、売上高、営業利益共に過去最高更新
- 家庭用製品は売上高、営業利益共に減少、営業利益率も低下

報告セグメント (単位:百万円)		2021年度		2022年度	前年同期比増減		前期比増減	
		上期	下期	上期	金額	率	金額	率
工業用製品	売上高	11,445	12,154	13,944	2,498	21.8%	1,789	14.7%
	営業利益	1,793	1,827	2,139	345	19.3%	311	17.0%
	営業利益率	15.7%	15.0%	15.3%				
家庭用製品	売上高	4,261	4,384	4,043	△ 218	△5.1%	△ 341	△7.8%
	営業利益	442	484	367	△ 75	△17.0%	△ 117	△24.1%
	営業利益率	10.4%	11.1%	9.1%				
その他※	売上高	510	690	689	178	34.9%	△ 1	△0.2%
	営業利益	151	181	220	69	46.1%	39	21.6%
	営業利益率	29.6%	26.3%	32.0%				

※その他：不動産事業及び薬理・安全性試験の受託を行う事業



3. 2022年度第2四半期連結決算概要

・主要事業区分ごとの売上高の状況

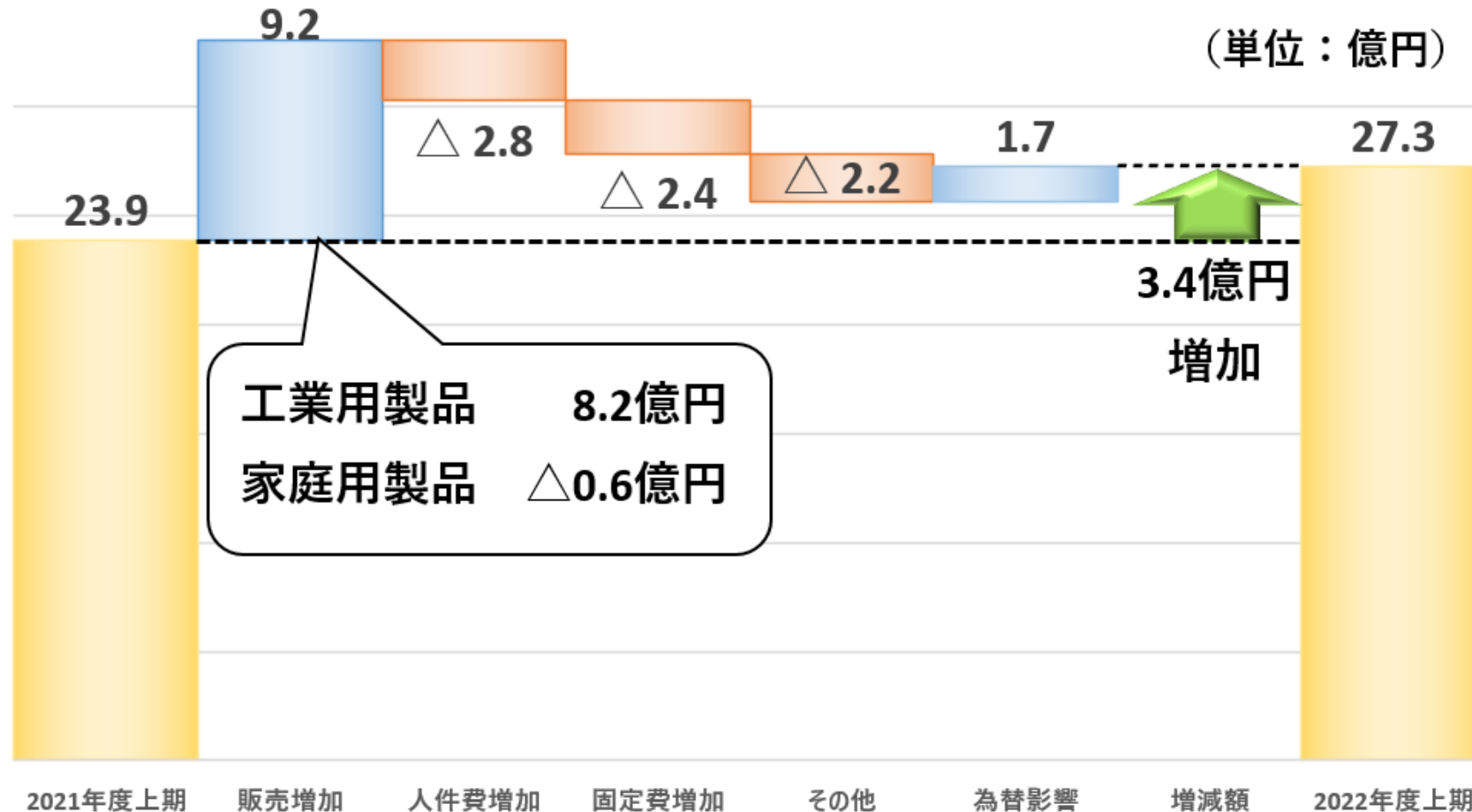
報告セグメント	主要事業	状況 (前年同期比)	概要
工業用 製品	香粧品事業 (化粧品用原料)	+28%	国内市場は顧客採用大型製品向け伸長、海外市場は欧米向け好調
	ラノリン・ コレステロール事業	+13%	前年度(2021年度)大幅に増加した海外向け販売が引き続き好調
	リピッド事業 (医薬用リン脂質)	+7%	海外向け拡販は安定
	精密化学品事業	+36%	脂肪酸アמידが伸長
家庭用 製品	アルボース	△5%	新型コロナウイルス感染症対策製品の法人需要が低下



3. 2022年度第2四半期連結決算概要

• 営業利益分析

固定費増加、原材料単価アップ影響あったが、販売増効果大きく増益





3. 2022年度第2四半期連結決算概要

・貸借対照表（単位：百万円）

勘定科目	2022年9月末残高	前年度末比増減	主な増減要因
現預金	12,013	△848	
売掛債権	9,239	+536	販売増加
たな卸資産	9,756	+1,336	原材料確保、販売増加に対応
有形固定資産	14,242	+1,469	医薬用リン脂質投資（含建設仮勘定）
投資その他資産	10,844	△360	投資有価証券含み益減少、一部売却
その他	1,719	+876	無形固定資産増加（新基幹システム）
資産合計	57,816	+3,009	
買掛債務	3,916	△12	
繰延税金負債	2,215	△51	
その他	5,857	+1,806	設備未払金増加（医薬用リン脂質投資）
負債合計	11,989	+1,742	
純資産合計	45,827	+1,266	自己資本比率77.7%（前年度末比△2.1%）
一株当たり純資産	1,902.04円	+50.20円	



3. 2022年度第2四半期連結決算概要

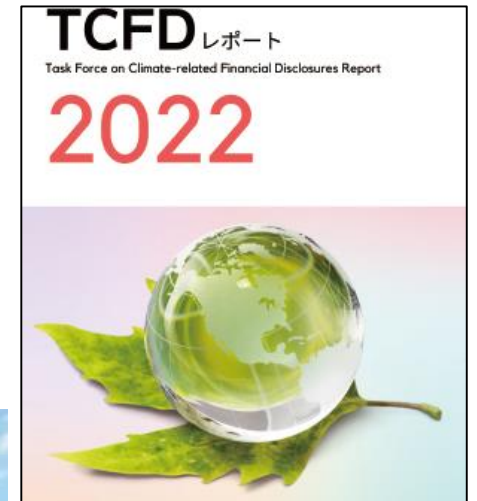
・キャッシュ・フロー（CF）計算書（単位：百万円）

区分	2022年度 第2四半期	主な要因
税前利益	2,882	
減価償却費	445	
運転資本増加	△1,768	原材料確保、販売増加影響
法人税等支払	△1,063	
その他	△237	
営業CF	258	
投資CF	△408	有形固定資産取得△452
（フリーCF）	（△150）	
財務CF	△725	期末配当△684
換算差額	47	
現金同等物増減	△827	



3. 2022年度トピックス(サステナビリティ)

- **マテリアリティ**（経営として取り組むべき重要課題）の**目標数値を設定**
- **TCFDレポート**を公開、指標と目標等を設定
- 具体的な取組として、本社ビル、高砂・加古川東・神戸の3工場で**再生可能エネルギー100%電力に切替**
- 「いろいろな人が活躍できる会社」を目指し、「**わーくはびねす農園**」へ参画





4. 2022年度通期連結業績予想

- 2022年4月28日公表数値から上方修正（前提レートも変更）
- 売上高は中期経営計画に未達も、目標数値に近い水準に

(単位:百万円)	2021年度	2022年度	前年度比 増減率	中期経営計画 (最終年度)	
	実績金額	予想金額		目標金額	目標比 増減率
売上高	33,448	37,400	11.8%	39,000	△4.1%
営業利益	4,881	5,200	6.5%	3,900	33.3%
営業利益率(%)	14.6%	13.9%		10.0%	
経常利益	5,127	5,550	8.2%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,472	3,750	8.0%		
1株当たり当期純利益 (円)	146.32	158.69			
EBITDA (償却前営業利益)	5,952	6,200	4.2%		

※前提レート
 1米ドル=130円
 1ユーロ=135円
 (期初比
 米ドル+10円
 ユーロ+5円)



4. 2022年度通期連結業績予想

- 2022年4月28日公表数値から工業用は増、家庭用は微減
- 両セグメントとも原料価格上昇等を価格転嫁でカバー

報告セグメント (単位:百万円)		2020年度	2021年度	2022年度	前年度比増減	
					金額	率
工業用製品	売上高	19,305	23,600	27,300	3,699	15.7%
	営業利益	2,293	3,621	4,000	378	10.4%
	営業利益率	11.9%	15.3%	14.7%		
家庭用製品	売上高	10,069	8,646	8,800	153	1.8%
	営業利益	1,423	927	850	△77	△8.4%
	営業利益率	14.1%	10.7%	9.7%		
その他※	売上高	1,134	1,201	1,300	98	8.2%
	営業利益	223	332	350	17	5.3%
	営業利益率	19.7%	27.7%	26.9%		

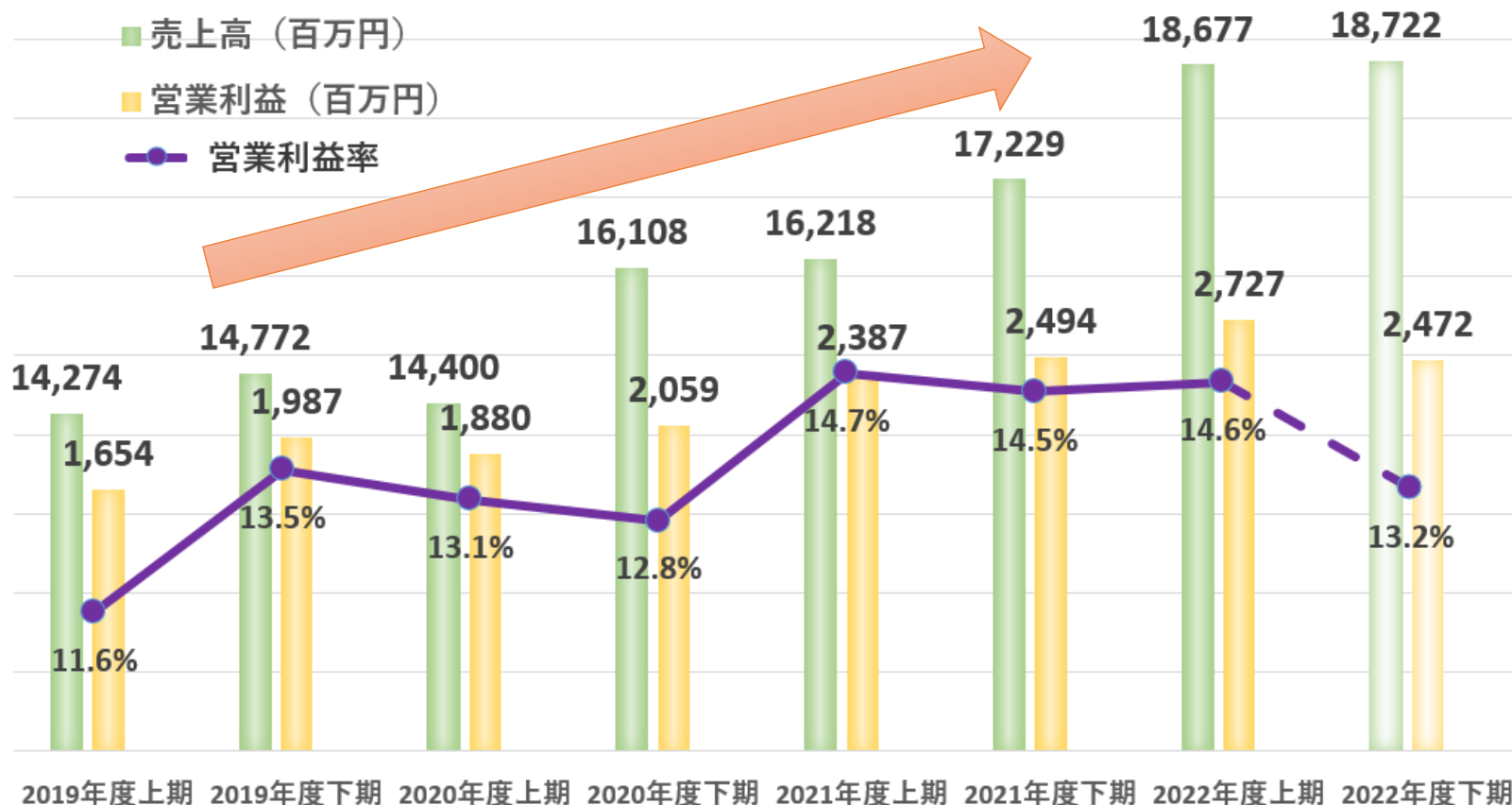
※その他：不動産事業及び薬理・安全性試験の受託を行う事業



4. 2022年度通期連結業績予想

・ 半期毎の売上高、営業利益及び営業利益率の推移

増収増益を継続してきたが、下期は原料コスト増、新工場立ち上げコストで減益予想
(予想)

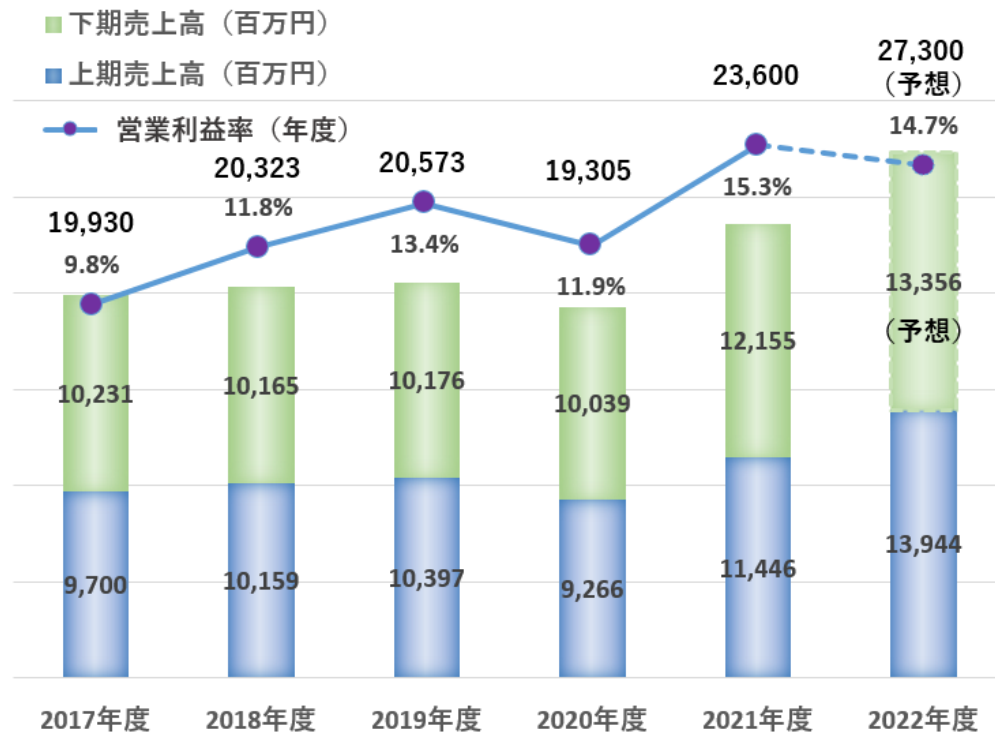




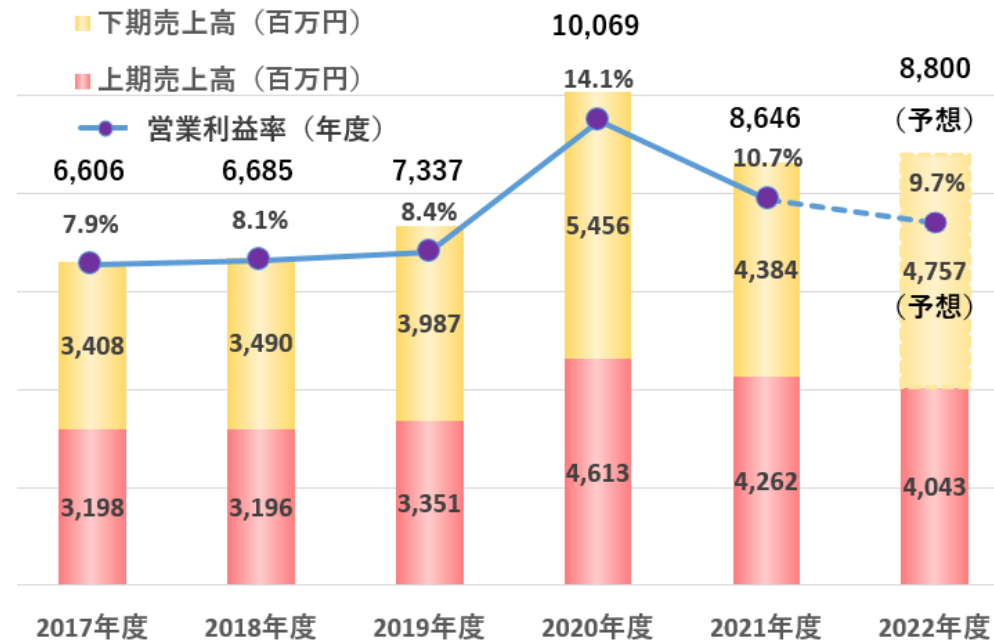
4. 2022年度通期連結業績予想

・セグメント別推移

工業用製品



家庭用製品



- ・ 上期は売上高が過去最高
- ・ 下期も堅調、利益率も高水準で推移

- ・ 上期売上高は前期比減も、2019年度比は増
- ・ 通期でも売上高・利益率増加傾向は維持



4. 2022年度通期連結業績予想

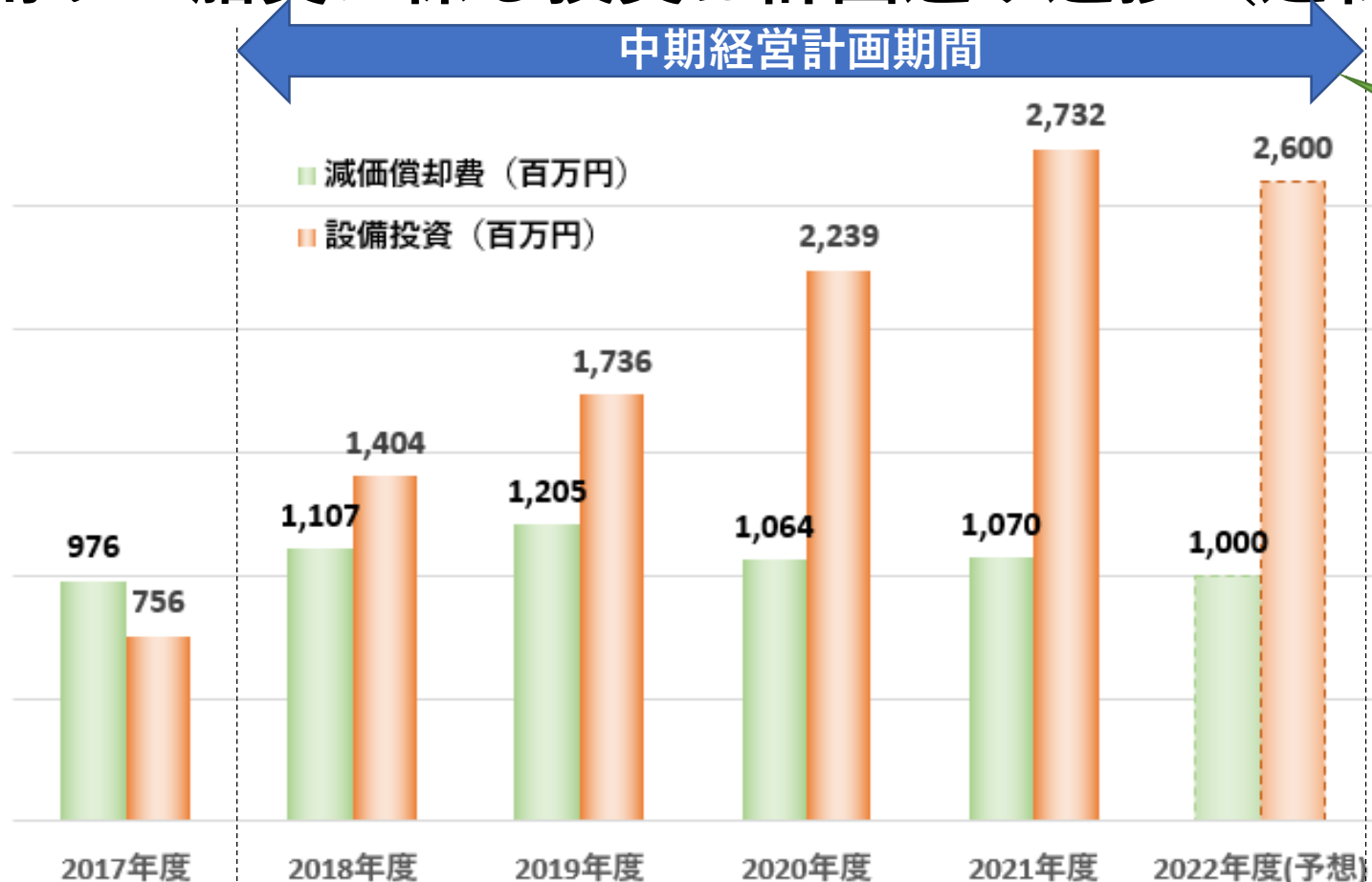
・主要事業区分ごとの売上高の状況

報告セグメント	主要事業	状況 (前年度比)	概要 (予想)
工業用 製品	化粧品事業 (化粧品用原料)	+27%	化粧品用原料の顧客製品への新規採用と国内外化粧品市場の緩やかな回復による販売増加
	ラノリン・ コレステロール事業	+8%	前年度 (2021年度) 大幅に増加した海外向けが引き続き好調 (前年度下期から伸長、伸び率鈍化)
	リピッド事業 (医薬用リン脂質)	+5%	海外向け拡販は安定 (新プラント稼働は2023年1月以降)
	精密化学品事業	+18%	脂肪酸アמידが価格転嫁進み更に伸長、機能性コーティング剤回復傾向
家庭用 製品	アルボース	+3%	上期は新型コロナウイルス感染症対策製品の法人需要低下も、下期は他感染症拡大・価格転嫁進展



4. 2022年度通期連結業績予想

- 設備投資（固定資産計上ベース）及び減価償却費
 医薬用リン脂質に係る投資は計画通り進捗（建物完成）



設備投資総額
約107億円の
見込み

※設備投資計画
2022年度までの5年
間で総額100億円

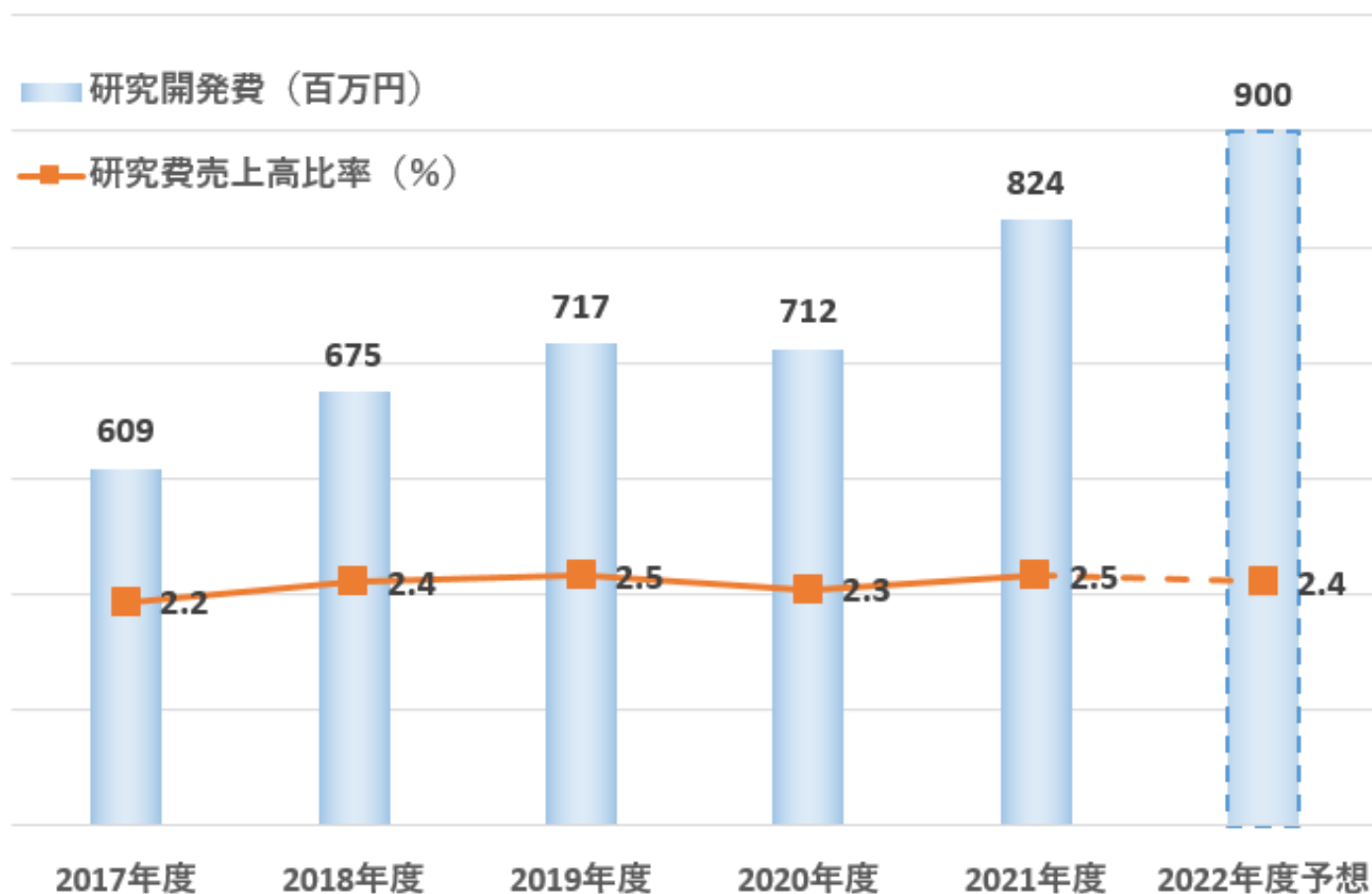
※2022年度より
減価償却方法を
定額法に統一



4. 2022年度通期連結業績予想

- (連結)研究開発費推移

今年度は前年比増、過去最高を更新の見通し

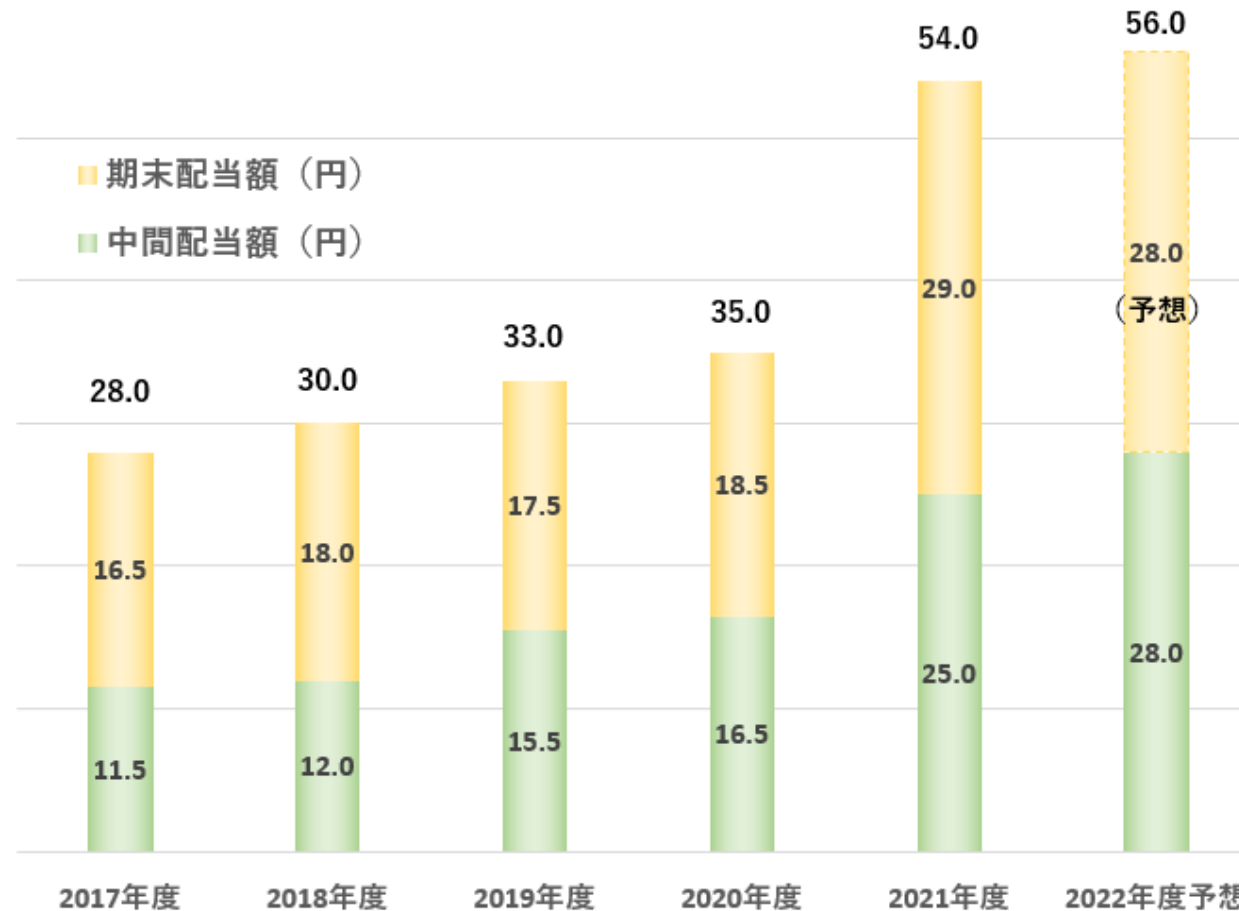




4. 2022年度通期連結業績予想

- 一株配当推移

前期から増配（D O E 3.0%を目安とした配当実施予定）





- 本資料に記載している業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。
- Ecolano、LanoAce、Presome、ニュートロン、Plandool、LUSPLANは、日本精化株式会社の登録商標です。